

令和3年6月号

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246
関市緑ヶ丘2-5-78
TEL : 0120-337-301
FAX : 0575-24-5733

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用 ・ 厚生労働省 ・ 国土交通省 ・ ㈱官公通信社 ・ 高齢者住宅新聞社 ・ 福祉新聞 ・ 日本経済新聞 他

小規模多機能型居宅介護事業所で新サービス 介護予防から看取りまで



※「優っくり看護小規模多機能介護三軒茶屋」外観

東京都を中心に特別養護老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所などを運営する社会福祉法人奉優会(東京都世田谷区)は2020年8月、法人初の看護小規模多機能型居宅介護事業所を開設した。

また同社が運営する小多機ではIoTを活用した見守りサービス「サブスクYUMICO」を開始し、小多機事業の強化を図り地域包括ケアを推進していく方針だ。

同法人初の看多機「優っくり看護小規模多機能介護三軒茶屋」(同)は、小多機からの転換により開設された。利用者の高齢化による、リハビリの要望や医療ニーズの高まりを受け、転換が決定したという。近隣地区の池尻の小

多機のほか、新設予定の下馬、弦巻の小多機との連携により、地域の中で介護予防から看取りまで対応できる体制の構築を目指す。

サブスクYUMICOは、利用者の自宅にドアセンサーやバイタルセンサーを設置し、クラウド経由で家族や事業所職員がどこからでも見守りできるサービス。異常があった際には即座に駆けつけられるほか、取得データと来所した際の様子を元に本人、家族と話し合うことで、情報量増加によるケアの質向上が期待できる。

また、ショートステイの居室に設置されたセンサーの情報も合わせて、自宅環境の整備へのアドバイスも行う予定だ。

今後は、小多機における地域参加型ワークショップや、認知症の啓発活動、子ども食堂などの開催により、地域のネットワークを形成し、小多機を中核とした地域包括ケアシステムを世田谷区で構築していく予定だ。

施設利用者の高齢化・重度化により、介護の予防だけでなく、看取り等厚いサポートのニーズが今後は高まっていくだろう。

利用者、事業者、地域の建設会社が三位一体となって、最適な介護施設を作り上げていくことが重要だ。